

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 3階

事業所番号	2772301285		
法人名	大盛施設株式会社		
事業所名	ドゥ マサコーヌ鶴ヶ丘グループホーム		
所在地	大阪市阿倍野区西田辺町1丁目11-3		
自己評価作成日	平成25年7月26日	評価結果市町村受理日	平成25年10月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成25年8月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

窓が多く、採光に恵まれており明るく開放的である。建物の前には公園があり、四季の移ろいを感じる事が出来る。「心に寄り添いながらその人らしく」をモットーに、共に楽しみ共に生活する「温かな家」としてその人らしさを維持出来るように、又過剰介護にならないように支援している。人によっては年月と共にADLも低下し、認知症が進行してきているのが現状である。日々穏やかに楽しく過ごし、生活に潤いが持てるように支援している。毎月の行事も季節感を感じていただけるように努めている。各居室にはトイレが設置されており、プライバシーの侵害なく落ち着いて排泄ができる。又、グループ内に病院があり安心感がある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

経営母体となる帝塚山病院は、西日本初の間人ドックと健診を主とした病院として昭和38年故大屋政子氏が開設。少しでも地域高齢者の役にたきたいとの思いで医療療養型病院へ転換。介護福祉士養成学校、小規模居宅介護、グループホーム、介護付有料老人ホーム、等の福祉施設グループを有する。当事業所は、それらのグループの中の一つで平成17年3月に設立した。「常に利用者様の立場で考える。地域社会に貢献する。」という基本理念を日々唱和しながら活動している。看護師の資格を持つ館長を中心に、職員達は明るく非常に元気である。彼らは、口を揃えて「お年寄りとお話するのが、楽しい。色々なことを教わる事ができる。」と言う。組織内に高齢者のための病院があるのも心強い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「優しく、温かく思いやりのあるふれあいの心を大切に、日々の福祉サービスに努め、利用者や地域の方々と共により良い福祉の実現に寄与する」理念を掲示し、入職時に説明。会議や研修で共有し意識しながら取り組んでいる。	「常に利用者様の立場で考える。地域社会に貢献する。」と言う基本理念の上に、行動指針を掲げたカードを常に携帯し意識づけをしながら、共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、又随時の回覧板で情報を得ている。公園の清掃活動や避難訓練にも交替で参加している。散歩などで地域の人達と挨拶を交わし交流を深めている。	事業所が、自治会に加入し地域の一員として活動している。事業所のすぐ前にある公園の清掃活動をしたり、毎日の散歩や買い物等で近隣の方々と挨拶をするなどして日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会に加入し、情報の提供を行ったり、行事への参加を促すチラシの配布を行っている。又渉外活動を通して情報交換を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センターの職員を始め数人に参加していただき、活動報告や取り組みに・現状について報告をしている。その場で得られた意見は職員間で話し合い検討している。	利用者、利用者家族、町内会長、地域包括支援センター職員、事業所職員等がメンバーとなって、隔月に開催している。会議では状況を報告すると同時に出席者からの意見や要望を受けサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	社会福祉連絡会や区の行事・研修会等に参加し情報交換を行っている。	区役所保健福祉課窓口へは必要に応じて都度訪問、また地域包括支援センター担当者には運営推進会議に出席して頂き運営に関する相談や報告をして協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員には入職時に説明をしている。年間勉強会にも計画している。安全面でやむを得ない場合にはご家族に説明をし同意を得た上でやっている。	身体拘束をする事によって利用者にも与えるダメージを研修会を通じて職員全体で共通理解し、出入り口の開放を含めて抑圧感のない暮らしの支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間勉強会に計画している。機会があれば外部研修にも参加。その場合には伝達講習を行っている。日常的にも職員間の連携を密にしお互いに声かけをし防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	参加機会があれば参加するように努めている。参加時には、後日伝達講習を行っている。必要に応じ、関連機関へ連絡・相談をするようにしている。現在3名の方が成年後見人制度を利用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明と文書により納得の上で契約を交わしている。重要事項説明書についても同時に説明し、同意を得ている。改定時には随時説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が気軽に要望や意見が言えるように雰囲気づくりに心がけており、日常の会話の中にも不満等が表れていないか注意している。玄関には意見箱を設置しており、要望や意見には速やかに対応するようにこころがけている。	職員は日常的に会話の中から、家族等が施設への訪問時に、また意見箱などの設置で外出に関する事、食事に関する事など意見要望を聞き出し、運営に反映させるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等で意見や提案を聞くようにしており、随時検討している。内容によっては上層部へも意見をあげている。	不定期ではあるが1～2ヶ月に一度、全体会議が持たれ、行事に関する事、シフトに関する事など、職員の意見や提案を聞く機会が設けられている。必要に応じて個人面談の機会もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員との交流の場をもち、意見や要望を聞き、働きやすい環境作り、職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の勉強会を計画しており、担当者を決めて勉強会を開催している。法人内でキャリアアップ研修が行われており、参加出来るように配慮している。また、資格取得に向けての協力も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、研修や交流の場に参加するようにしている。外部からの実習の受け入れも行っており、意欲向上へつながらるように働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前訪問・面談をし、利用者の困っている事や要望を聞くようにしている。今までの生活歴や取り巻く環境、本人の性格等も把握するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談や面談で、ご家族の困られている事や要望・不安等々を聞くようにしており、納得した上で入居していただくように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にグループホームへの入居対応かどうか判断しており、必要に応じ他のサービス機関への対応を支援している。又、必要に応じ、福祉用具の対応等々も配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の残存機能や維持能力を考え、自立支援につながるようサービスの提供を考えている。共に生活する者として、喜怒哀楽を共有できるような環境作り・雰囲気作り・生活援助に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に利用者の日々の生活状況を伝えており、ケアの変更等も本人の気持ちを大切にしながらご家族の意見を聞くようにしている。些細なことでも伝えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人が訪ねやすい家庭的な雰囲気づくりに配慮している。外出や面会時間に制限していない。とすれば足遠くなりがちなお家族には極力足を運んで頂けるよう心がけている。	これまでの地域社会との関わりを継続していくために、家族等の協力を得ながら、利用者一人ひとりの馴染みの場所、美容院へ行ったり友人に出会ったりするように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活において、交流が図れるよう場所の提供や雰囲気づくりに配慮している。コミュニケーションが困難な利用者には、職員が寄り添い交流が図れるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事への参加を呼びかけたり、季節のお便りを出している。必要に応じ相談もうけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に本人とご家族に面談をし、生活歴や環境、性格や趣味等を聞いており、職員間で情報の共有をするように努めている。入居時に暫定のケアプランを作成、随時検討をしている。	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望を、日々の関わりの中で把握に努めている。困難な場合は生活歴の中から、また、家族や関係者の中から聞き出しケアプランを立てている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に面談と合わせて生活状況申告書を記入(或いは聞き取り)してもらい、今までの生活状況を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護支援経過記録に日々の生活状況を記録している。心身の変化がある場合には細かく記録し、申し送りやノートに記録して伝達。就業前に記録物に目を通し、情報の把握と共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時に暫定ケアプランを立案し、利用者・ご家族に説明し同意をえている。随時ご家族や職員からの意見や情報を得てカンファレンスにて検討している。	介護計画の期間は一応6ヶ月としているが、支援経過を見ながら変化が起きた時には、そのつど臨機応変に介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を介護支援経過に記録しており、一日を通して心身状況のへんかや、レクリエーションへの参加状況・趣味等気づいたことも記録している。又申し送りにて得た情報を共有するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスの提供にあたっては、利用者の要望を聞くようにしており、状況に合わせてサービスの見直しや介護保険以外のサービス等も支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して生活出来るように周辺地域の機関から協力を得られるようにしている。また、近隣への散歩や買い物等生活に多少でも潤いが持てるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時を始め、随時利用者やご家族の意向を聞き、適切な医療が受けられるように支援している。必要に応じ、主治医への情報提供や連絡も行っている。	かかりつけ医は、本人や家族等の希望する医療機関になっている。また、受診や通院支援についても利用者本人や家族等の希望に応じて対応するようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であり、同館内のデイサービスにも看護師が勤務している。いつでも相談が出来たり、適切な処置を行う事が出来る。必要に応じ関連機関との連絡も取れるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	グループ内に病院があり、主治医や関連部署と密に連絡が取り合える。他の病院へ入院時には随時面会に行ったり、ご家族と連絡をとっている。又病院の相談員の方にも挨拶をするようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に緊急時の対応について本人やご家族の意向を聞くようにしている。重度化した場合にもその都度意向を聞いている。看取りを希望された場合には主治医にも協力を要請している。	入居契約時に重度化や終末期の対応について、利用者、家族と十分話し合い、希望に添える体制が整っている。看取りの経験も過去に1例あり「看取り指針、同意書」も作成されている。主治医、家族、職員とその都度話し合い、支援する体制が出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間勉強会で計画し、繰り返し勉強会を行うようにしている。急変時や緊急時に関しては連絡網を作成し、掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者参加の訓練を行っており、実施時には近隣へ声かけを行っている。地域の防災訓練にも参加。年に2回防火設備点検を行っている。	災害時における避難訓練や消防訓練を、利用者と共に年に2回消防署指導のもと行っている。災害に備えた備蓄備品も万全である。しかし、夜間を想定して地域の方々と共に行う避難訓練、協力体制は不十分である。	避難訓練で駐車場まで誘導した後の見守りを地域の方をお願いするなどして、町内会等地域との関係体制を整うことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	共に暮らす家族と思う一方、人生の先輩としての一人ひとりの人格を尊重し、対応するように心がけている。	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることのない丁寧な言葉掛けや介助が見られる。個人ファイルも各ユニット・スタッフルームの書棚や事務所の書棚に施錠して保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に応じた説明や働きかけを行うようにしている。利用者の希望や思いが表せるように場所も配慮して聞くようにしている。利用者の能力に応じて、自己決定が行えるように考慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の個々のペースに合った対応を心がけている。個々の趣味や興味を把握し、提案しても押し付けにならないように配慮している。フロアで一日過ごされる事もあれば、居室で自由な時間を過ごされる事もある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居時には馴染みの衣類や化粧品・装飾品を持参してもらっている。外出時等必要に応じアドバイスも行っている。希望により訪問で理・美容を利用されており、カラーや髪型も希望を聞くようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の身体機能や能力に合わせてテーブル拭きや後片付け、メニュー書き等を一緒に行っている。職員も会話を楽しみながら共に食事をいただいている。握り寿司実演も行っている、	給食会社の食材を職員が再加熱し盛りつけたものを、利用者が配膳や後かた付け等手伝っている。利用者と職員が同じテーブルで楽しく語らいながら食事をする家庭的な風景が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立に基づいて食材が届けられている。個々によって形状にも配慮している。一日を通して水分補給にも注意しており、夜間もちろんのこと日中もこまめに水分摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後・起床時・就寝時等々必要に応じ口腔ケアの声かけを行っている。介助の必要な人には、個々の能力に応じた支援を行っている。希望者や必要に応じ歯科受診も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、時間を見計らって個々に誘導している。フロアで過ごされていても自己の居室内での排泄を心がけている。夜間も極力トイレでの排泄を促すよう時間毎に誘導している。	利用者の排泄パターンやサインを職員は把握して、あからさまな誘導ではなく、さりげなく誘導をし、一人ひとりに合った希望に添った支援がされている。夜間は二時間毎に巡回して排泄介助に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりに応じた対応をしている。運動や水分摂取。状況によっては緩下剤の投与を主治医と相談。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴日を決めているが、状況に応じて午前中の中の入浴や日曜日も実施している。季節に応じたショウブ風呂や柚子湯等も行っている。	入浴は週3回、時間は午後1時半～4時を基本にしているが、要望により柔軟な対応をしている。また入浴拒否の利用者への対応は職員を変えたり時間を変えるなど工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日を通して生活のリズムが保たれるように配慮している。状況を見つつ臥床の声かけも行っている。一人ひとりの睡眠パターンを考慮し、安眠できるような環境を整えるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の用法や用量に関してはフェイスシートに記載し、いつでも見れるようにしている。内服薬の説明書もファイルしており、いつでも確認できるようにしている。個別に区別しており、チェック表にて確実な内服を行うようにしている。又状況により看護師に相談するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活において、個々に応じた役割の声かけを行うようにしており、無理の無いように支援している。レクリエーションや散歩等も状況や本人の意思を確認しつつ共にするようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その時の状況により、近くの公園に出かけている。行事として「初詣」「お花見」「夏祭り」「一日旅行」「クリスマスコンサート」等出かける機会を持つようにしている。	利用者のその日の希望に添って、事業所の周辺を散歩したり、事業所前の公園を散歩したりしている。時には、家族等の協力を得て一日バスツアーで生駒山や花園園等へ出掛けることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	安心感も考慮し、利用者によっては多少の小銭を持たれてる方もおられる。紛失によるトラブルを考え、ご家族と相談の上決定している。基本的には預かりとし、必要時に渡すようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には利用者の能力に応じ支援している。電話番号が分る方には自分でかけていただくが、わからない方には職員が中継ぎを行っている。又宅配便が届いた時には職員が中継ぎし連絡を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓面が多く、採光に恵まれている。カーテンや窓の開閉により音や光の調整を行っている。季節に応じた作品を掲示し、日常的には音楽を流している。	ゆったりした明るいダイニングルーム兼用のリビングルームでは利用者それぞれがテレビを見たり、仲間同士が話し合ったりしてくつろいでいる。壁には利用者や職員の作った季節の展示があるなど、生活感に溢れ居心地良く過ごせる工夫が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファ・椅子・テレビを置き、思い思いに過ごせるようにしている。廊下にはベンチがあり、そこでの会話や一人の時間が持てるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	許容範囲内で馴染みのものを持参されており、居室を自分の部屋として過ごしていただくよう配慮している。	それぞれの居室には、利用者の使い慣れた家具や家族の写真などが持ち込まれ、その人らしく居心地良く過ごせるための工夫が見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有部分や廊下・リビングに手すりを設置。各居室のついでにも手すりを設置している。洗面台は車椅子に乗ったまま使用可能な高さである。		